

はじめに

昨年度の実習調査では女子が6人も卒倒や発熱をやらかした。怒ったり嘆いたりした。もうあんな思いをしたくないので、ひたすら無事を願い、訓練を二の次にして実習場を探した。

城島遺跡は合宿所から数分のところにあり、ゲートボール場と並んでいるので便所も水道もある。高いから風通しもよいし、ハブも少ないようだ。医院も近くにある。その代り、採集される遺物は、量が多いが小片で、ローリングがひどかった。遺跡は底近くまで攪乱されている恐れがあった。

この懸念は的中した。遺跡の残存面積は僅かで、遺構同士の切り合いで滅茶苦茶になっているそのまた上を、数本の深い耕作溝が切り刻んであった。難解な調査になってしまった。もしかすると二年次生はやたらに頑張ったという満足感だけが残ったのかもしれない。

徳之島町教育委員会はこれを町の事業として推進して下さった。花徳の老人会・婦人会・青年団の皆様方から様々な御援助を頂いた。よく熟れた西瓜の味は極上だったし、手作りの芝居の軽妙さに腹を抱えて轉ったりした。昨年とは打って変わって誰一人体調を崩す者もなく、意気揚々と帰学できたのも御厚情の賜物であった。ここに書き留めて心からの謝意を表明する次第である。

帰学後のデスクワークの実習も昨年比して随分順調に進んだ。どんな学問でもそうだが、考古学の研究は特に仲間の協力関係に負うところが大きい。それに隙間ができると細部の詰めに齟齬を生じやすい。それを防ぐべく随分頑張った者が居た上での順調さであったようだ。

全体にわたって軽い添削ですんでしまったが、これは私の加齢のせいである。来年は氣力を振って原稿を突き返すことにするが、そんなわけで内容は生硬なままである。導入部と結語は目立つだけに欠点も増幅されるものだが、比較的好く全体を押さえ込んであった前者に対し、後者はいささか継接の憾がある。客観を願う気持ちと何らかの視点に立とうとする姿勢が混淆したままで、熟成に今一息というところか……。

終りになったが、例年どおり石材の鑑定を御指導下さった地学の髙橋俊正先生、長谷義隆先生に御礼申し上げたい。ピーナツ畑を潰して調査させて下さった耕作者の広さん、地主の広沢さん、発見者の町田さんも、その他の方々も、御健勝でいらっしゃいますように――。

1990年3月15日

白木原 和美

例 言

- 本書は熊本大学文学部考古学研究室による鹿児島県大島郡徳之島町花徳城島2627番地所在の城島《ウスクバタ(ウスクバテ)》遺跡の発掘調査概要である。
- 発掘調査は実習調査として研究室が起案し、徳之島町教育委員会の協力を得て実施された。1989年7月9日に開始され、7月20日まで計12日間にわたって行われた。
- 本書の編集は岩崎・山下が行い、執筆者は各文末に記した。

調査参加者

白木原和美 甲元眞之 岩崎充宏

山下志保 (大学院1年次生)

川瀬雄一 坂本純子 秦憲二 中嶋浩彰 松村真紀子 村上智恵子 森由紀子 横山哲英 渡辺弘美 (以上3年次生)

市川浩文 大田真由美 川俣恵 田中聡一 水上綾子 大和優子 (以上2年次生)

なお、整理作業は全員で行ったが、上記の他に新谷晶子(3年次生)も参加した。

本文目次

一、遺跡の位置と環境	2
二、調査の概要	4
1. 調査の目的と経過	4
2. 層序	5
三、遺構	9
四、出土遺物	17
1. 土器	17
2. 石器	26
五、まとめ	35